

ほけんだより

令和6年度 2月号

寒い日が続くと窓を開けての換気を忘れがちですが、マスク・手洗いと同じくらい換気することは感染症を蔓延させない為の予防となります。室内で長く過ごす時は気分転換もかねて1日数回窓を開けて換気することもこころがけていきましょう。

〜〜12・1月の感染症情報〜〜

- 12月：手足口病・・・・・・・・・・8名（あかちゃん組 2人 ペんぎん組 3人
らっこ組 3名）
新型コロナウイルス・・・・・・・・・・1名（あかちゃん組）
とびひ・・・・・・・・・・1名（らっこ組）
インフルエンザ（A型）・・・・10名（あかちゃん組 6名 ペんぎん組 2名
らっこ組 1名 くじら組 1名）
1月：インフルエンザ（A型）・・・・1名（あかちゃん組 2名 ペんぎん組）
溶連菌感染症・・・・・・・・・・1名（ぺんぎん組）
コロナウイルス感染症・・・・1名（らっこ組）

登園禁止措置（出席停止期間）とは？

「熱や主症状が消失しても数日お休みして下さい」とお願いしている感染症があります。園は免疫力が未熟な乳幼児から色々な感染症を経験した5〜6歳児までが集団で長時間生活しています。その中で感染症が蔓延しないよう感染力が強い時期にお休みして頂くのが出席停止期間です。登園の目安は日数だけでは無く、子どもの表情・食欲もしっかり加味してください。また、感染症の中には症状が治まっても1ヵ月位は便にウイルスが排出される場合もあります。排便（オムツ交換）後の手洗いは忘れずにして下さい。

新型コロナウイルスに感染した場合は発症から5日以上かつ、（薬を飲まずに）症状が消失してから24時間以上経過（この期間が出席停止期間）していれば登園可能ですが、受診先の医師の指示に従ってください。

受診した時の情報を知らせてください

病院を受診した場合、症状が落ち着いてからの登園でも「病院でこんな事言われました。」
「こんな診断名でした。」など、友達にうつす可能性が低い場合でも忘れずに保育者に伝えて下さい。また、お休みする場合や遅れる場合の連絡を忘れないようにお願いします。

インフルエンザのはなし

空気が乾燥していると様々な感染症が流行します。インフルエンザは潜伏期間が短く感染力が強い病気です。園は免疫力の未熟な乳幼児も生活しています。インフルエンザを発症したら、しっかりと療養して元気が戻ってから登園してください。

抗インフルエンザ薬の効果で熱がすぐに下がってもウイルスの感染力はしばらくの間残っています。また、インフルエンザは一旦熱が下がっても、再び発熱する場合があります。

札幌市乳幼児園医協議会によると、インフルエンザの登園の目安は
発熱した日を発症初日（0日）と数え

「発症後5日間を経過し

かつ、解熱した後3日間を経過するまで」と

なっています。出席停止の感染症ですので診断されたら園に知らせ下さい。また自宅療養中、薬(解熱剤)を内服しなくても平熱で過ごせるようになった日・登園予定日も電話連絡下さるようお願い致します。

送迎する保護者や園児の兄妹などが感染している場合は園舎に入れません。インターフォンを利用するなどの対応を致しますのでご協力をお願いいたします。また、学級閉鎖などで学校が休みの兄弟も（発症していなくても）極力、園舎に入らないようご協力お願い致します。

1日にうちで発熱・解熱状態のどちらも認めた場合は発熱期間です。本当の解熱とは37.4℃以下（解熱剤を使用しない状態）が24時間以上経過した場合です。

検査のタイミング

発症してから12時間未満の検査では、本当は罹患しているのに陰性（偽陰性）で出てしまう場合が多いです。検査や来院回数が1回で済むように発症してから12時間（できれば24時間）経過してから検査、受診しましょう。但し、元気が無い・おしっこが出ない・苦しそう等の症状がありましたら、すぐに受診してください。

抗インフルエンザ薬

インフルエンザになると抗インフルエンザ薬を処方されることが多いと思います。基本的に抗インフルエンザ薬はウイルスを倒す薬ではなく、ウイルスの増殖を抑える薬です。その為、ウイルスが増えきる前に使用する必要があり、発症してから48時間以内の使用が推奨されています。効果は発熱期間を1日程度短くなる・重症化を予防することが挙げられます。インフルエンザは基本的に自然に治る病気である為抗インフルエンザ薬は必須ではありません。

